

Raymond Academy

レイモンド学園だより No.38

2017年5月

「イサクを育てる」

学園長 伊東 美穂

今年私が受け持つ国語の授業は、小学5年生です。初めて受け持つ生徒たちですので、とても楽しみにしていました。また私は、国語の授業が大好きです。レイモンド学園は少人数で国語のクラスを持っているので、公立の教科書と、クリスチャンスクール「地の塩出版」が発行する教科書を合わせて2種類を学ぶことができます。ことに、「地の塩出版」の教科書は、聖書の中の話や、信仰的な内容の文章ばかりですので、授業中に教会学校のメッセージを聴いているような感じを持つかもしれません。

現在5年生の国語の授業では「アブラハム」を学んでいます。創世記19章から22章までをまとめて書きおとされた内容で、クライマックスはアブラハムが約束の子イサクをモリヤの山で神に捧げようとした時、神がその手を止められ贖いの雄羊を用意してくださった場面でした。クラスでは生徒とアブラハムの信仰について学ぶのですが、私個人はイサクの信仰を深く学ばされました。

イサクは父アブラハムの日頃とは違う雰囲気を感じながら、父と一緒に全燃のいけにえを捧げるためにたきぎを背負い、動物を携えずに黙々とモリヤの山に向かっていきました。途中一抹の不安を抱えながら沈黙を破り「いけにえの動物はどこにありますか。」と父にたずねます。そして父より「神が備えてくださる」と言われて、また黙々と山に向かっていきます。いよいよ山に着き、祭壇の上にときぎを用意していた時にも動物はいませんでした。自分こそ神にささげられるいけにえだと悟ったイサクは、真剣な面持ちで自分の体にひもを縛り、祭壇に乗せようとする父アブラハムに、すべてを委ね、従いました。

私たち親は、アブラハムのように神様から与えられた我が子を神様に捧げます。アブラハムは、「あなたの子孫は星のようになる」と言われた唯一の約束の子供であるイサクを、全焼のいけにえとして捧げなさい、と神から言われたとき、そのお言葉の通りに従いました。イサクは生まれてから少年に至るまでの間、常に神に従う父アブラハムを見て育ちました。神を愛し、常に忠実、誠実、謙遜であった父を敬い慕って育ったとともに、主の変わらないご真実と恵みと祝福を目撃して育ってきたことでしょう。そして、全てを捨てて神様に従おうとする父アブラハムのしようすることを妨げず、自分も父に従いました。

このことを学んだ時、「私もアブラハムのようにになりたい、そして献身者イサクを育てたい」と心より願いました。しかし、自らを主に捧げるとき、アブラハムのように

本当に誠実に歩んでいるだろうか、自分の祈りと願いを主の御心より先行させていないだろうか、神ご自身が全焼のいけにえを備えてくださると信じて山に登っているだろうか、と吟味したいと思います。このことがなくては、イサクは育てることは出来ないでしょう。

主イエス様が私たちのために身代わりの供えられた全焼のいけにえとなってくださいました。親も子供も、教師も生徒も、共に自らを捧げつつその山に目を向けて歩んでいきましょう。

【証】

崎山 恵子 (教師/保護者)

子どもを育てる上で、子どもの教育は、大きな要因となります。全てのことに完璧ということはあり得ないように、子どもの教育に関しても、常に何かを選択しなければならず、どの場合にも、全ての条件や要望を満たすと言うことは、ありえないでしょう。アカデミックな面での指導、体育施設の充実、友達の多さ、立派な設備など……。子どもの為にと欲張ってみても、それら全てが手に入るという環境は、ないのでしょうか？

では、視点を変えて、子ども達にとって、最も大切なこととは何でしょうか？人によって考えが異なると思いますが、私の場合は、自殺や生きにくいことの多い世の中で、幼いうちから、若い時から、生きていく力をつけることだと考えていました。

聖書にこう書かれています。

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」マタイの福音書 6章 33節

子どもが大きくなって私の手を離れたときに、神様に従うことだけしてくれるならば、あとのことはどうにでもなるだろうと思っています。どんな仕事についても、お給料がどれくらいでも、どんな暮らしでも、神様を愛する人に育てば、子どもにとって幸せな人生になるだろうと信じます。そのような思いで、2004年の9月から、レイモンド学年と一緒に学びをさせていただきました。

実際には、歩んできた道のりは平坦ではなく、そう思いながらも、私自身が躓いて、何度も揺らいでしまいました。子どもが小さい頃から親の言うことを聞かせられれば、良いことは皆教えてあげられる、と信じて育てていても、言うことを聞かせられない時も多々ありました。私自身の色々な葛藤から、もう全てを放り出してしまいたいと思ったときもありました。そのような時、神様は、先生方やメッセージ、またトレーニングを通して、私の心に平安を与えてくださいました。自分の考えに逸れそうになった時に、神様は私に必要な助けを送って下さいました。子ども達は私の子どもでも

あるけれど、神様の子どもであるから、自分一人でやらなくていいと安心するようになりました。

全てを背負おうとしないで、子供たちが自立する時、神様が行きなさいと言う方向に委ねることができます。どんな場所でも、どんな方法でも、神様を愛する子どもを育てることが出来れば、いいと思いますが、私の場合は、レイモンド学園という助けを頂いていることを心から感謝しています。神の国とその義とを求めた時、全てのものが与えられるとは、なんと素晴らしい神様のお約束でしょうか。レイモンド学園を通して、助けられた者として、また少しでも他の家族の皆さまのお手伝いが出来たなら、本当に幸いです。

【報告】

2016年12月9日(金) サニーライフ訪問

学園の近くにある高齢者施設サニーライフで、クワイヤチャイムを演奏しました。演奏後には手作りのクリスマスカードを手渡しし、大変喜ばれました。



2017年3月10日(金) 第5回 卒業式

高橋陸君は9年間、伊東実結さんは13年間の学びを終え、無事にレイモンド学園を卒業しました。二人の新しい生活と学びのためにもお祈りください。



2017年4月7日(金) 2017年度入学式

新一年生としてロケ ジョイエル^{りき}力君が入学し、22名の生徒と、7名のフルタイムの教師で2017年度をスタートしました。



【お祈りのリクエスト】

4月に入学した新一年生のロケ・ジョイエル・力君の学びのために

5月18日から29日までの International Student Convention に参加する生徒と教師の旅が守られ、豊かな祝福を受けることが出来るように

6月24日のレイモンド学園祭の準備のために、また、幸いな学園祭となるように

教師の健康が支えられ、その献身が主に喜ばれ主のご栄光を表すことが出来るように

卒業生たちが大学、神学校、職場にて神様と共に歩み、主の証人として用いられるように

